

- 問1 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、銅剣や銅矛、銅鐸などの青銅器は、時代が進むにつれて本来の武器としての役割から変化し、どのような目的で用いられるようになりましたか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 1. 豊作などを祈るための祭りの道具 | 2. 仏教の教えを広めるための儀式用具 | 3. 巨大な古墳を築造するための土木用具 | 4. 定期市で品物を交換するための貨幣 |
|--------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
- 問2 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。 (2026年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 秦 | 2. 漢 | 3. 隋 | 4. 魏 |
|------|------|------|------|
- 問3 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|--------|-------|
| 1. 鉄器 | 2. 打製石器 | 3. 青銅器 | 4. 土器 |
|-------|---------|--------|-------|
- 問4 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、周囲を深い堀や土壁で囲んだ大規模な環濠集落である。このような集落が造られた当時の社会背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. ナウマン象などの大型の獲物を効率よく捕獲するための罟として、村の周囲に深い溝を掘る必要があった。 | 2. 氷河期が終わり海面の上昇が激しくなったため、集落が水没しないよう高い防波堤を築く必要があった。 | 3. 大陸から仏教が伝来し、その寺院を保護するために宗教的な儀礼として堀を巡らせる必要があった。 | 4. 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。 |
|---|--|--|---|
- 問5 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。 | 2. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。 | 3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。 | 4. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。 |
|---|--|--|---|
- 問6 弥生時代の遺跡で見つかる特徴のうち、当時の社会において集団間の緊張や争いがあったことを最も直接的に示しているものはどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡 | 2. 湿気やネズミの被害から穀物を守るために、柱にねずみ返しを設けた床の高い建物 | 3. 祭祀や宝物として用いられたと考えられる、複雑な文様が描かれた青銅製の銅鐸や銅鏡 | 4. 収穫した稲の穂を効率よく摘み取るために使用された、平らな石に穴を開けた石包丁 |
|--|--|--|---|
- 問7 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 竪穴住居 | 2. 高床倉庫 | 3. 高地性集落 | 4. 環濠集落 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問8 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 環濠集落 | 2. 高床倉庫 | 3. 前方後円墳 | 4. 竪穴住居 |
|---------|---------|----------|---------|
- 問9 弥生時代に製作された青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面には当時の生活の様子や動物の文様が刻まれている「銅鐸（どうたく）」は、主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------|--|---|
| 1. 衣服を織るための繊維を整えたり、糸を紡いだりするための機織り用の道具として用いられた | 2. 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた | 3. 集落間の戦いにおいて、敵を攻撃したり威嚇したりする武器として用いられた | 4. 収穫した穀物を煮炊きしたり、保存したりするための調理器具として用いられた |
|---|--------------------------------|--|---|
- 問10 弥生時代に大陸から伝わった青銅器の一つで、釣鐘（つりがね）のような独特の形をしており、主に近畿地方を中心に発見されている、農耕の祭祀（さいし）に使われたと考えられている道具の名称として適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 銅鏡 | 3. 銅剣 | 4. 銅矛 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問11 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため | 2. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため | 3. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため | 4. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため |
|---|--|--|---|
- 問12 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化した稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 | 2. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 | 3. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。 | 4. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 |
|--|---|---|--|
- 問13 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|--------------|----------------|---------------|
| 1. 奴国 — 卑弥呼 | 2. 奴国 — 持統天皇 | 3. 邪馬台国 — 推古天皇 | 4. 邪馬台国 — 卑弥呼 |
|-------------|--------------|----------------|---------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	大陸から稲作の技術とともに伝わった青銅器は、当初は武器としての形を持っていましたが、次第に大型化・薄型化していきました。これは実戦で使うためではなく、村のまとまりを強めるための祭りや儀式において、神を祀るための「祭具（祭礼具）」として重宝されるようになったからです。
問2	答え 2 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問3	答え 3 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問4	答え 4 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。	弥生時代に稲作が始まると、余剰生産物の貯蔵や、稲作に不可欠な水田・用水をめぐる集落間で利害対立が生じ、戦争が起こるようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる環濠や土塁、物見櫓は、敵の侵入を防ぎ、村を守るための防御施設として機能していました。
問5	答え 1 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐる集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問6	答え 1 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡	石包丁は農業技術、銅鐸は祭祀、高床倉庫は貯蔵に関する特徴ですが、環濠集落における深い堀や柵（逆茂木）は、純粹に軍事的な防衛を目的としています。吉野ヶ里遺跡などでは、こうした強固な防御施設に加えて、敵を監視するための物見やぐらも確認されており、弥生時代の社会が戦乱の影響を強く受けていたことを物語っています。
問7	答え 4 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問8	答え 1 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問9	答え 2 作物の豊かな実りを祈るなどの祭りの道具として用いられた	銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器の一つです。当初はつり下げて鳴らす楽器として使われていたと考えられていますが、次第に大型化し、豊作を祈るための祭礼や儀礼において重要な役割を果たす「祭礼具（さいしぐ）」として用いられるようになりました。表面に刻まれた鹿や農耕の様子などの文様は、当時の生活や信仰を知るための貴重な史料となっています。
問10	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から銅とスズの合金である青銅で作られた道具が伝わりました。銅鐸はその代表例で、つりがねの形をしています。主に近畿地方で多く発見されており、豊作を祈る村の共同体の儀式などで使われたと考えられています。銅鏡は鏡、銅剣や銅矛は武器の形をした青銅器であり、これらも次第に実用具から祭祀用へと変化していきました。
問11	答え 3 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問12	答え 2 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。
問13	答え 4 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。